

ID連携・情報流通基盤の構築

に住んでいても、その人にとって適切な
・介護サービスが受けられる社会へ

改革のイメージ

病気になったら

(人員1.6倍
~2倍)



医療・介護連携 (EHR・PHR※連携)

地域医療連携 (EHR※)

包括的
マネジメント

- ・在宅医療連携拠点
- ・地域包括支援センター
- ・ケアマネジャー

遠隔医療・介護 (PHR※)

医療・健康情報の活用

二次利用 臨床疫学研究

一次予防、二次予防 保健事業支援

グループホーム
(17→37人分)
・小規模多機能
(0.25か所→2か所)
・デイサービス など

介護

介護人材
(219→
364~383人)

在宅医療等
(1日当たり
17→29人分)
・訪問看護
(1日当たり
51人分)



24時間対応の定期
巡回・随時対応サー
ビス (15人分)

※地域包括ケアは、
人口1万人程度の
中学校区を単位と
して想定

※数字は、現状は2012年度、目標は2025年度のもの

■ ID連携・情報流通基盤の構築

- ◆ **医療健康共通基盤**（EHR、PHR）の開発により、地域医療連携、対面同等の効果を持つ遠隔医療・介護、および医療・介護連携を実現

■ 医療・健康情報の活用

- ◆ **保健事業**における予防・疾病管理プログラムの充実
- ◆ **医療健康情報の二次利用**



- ◆ 日々のバイタル情報と医療情報を活用し、**病気になる前に異常を発見**し、高額な医療費がかかる重い病気にさせないことで医療費削減に貢献

- 未病に留める。たとえ病気になっても、地域包括ケアで在宅でカバー
- NTTは、医療機関や施設、情報および人を**“つなぐ”**ことをミッションとする

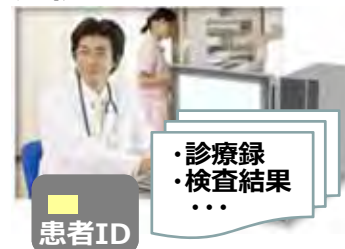
EHR、PHR実現における課題

収集・提供すべき個人の医療・健康情報は、管理（責任）主体が異なる複数の事業者に散在している

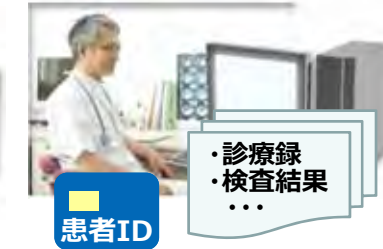
薬局



病院

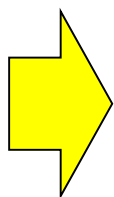


診療所



EHR/PHR実現のための課題

異なる事業者間で医療・健康情報を流通するためには以下の課題を解決する必要がある



事業者ごとに異なる
ユーザID

事業者ごとに異なる
運用管理

事業者ごとに異なる
データフォーマット

異なる目的・権限による
データ操作

医療・健康情報に適した
セキュリティ確保

生涯にわたっての
情報管理

課題	対応機能	概要
事業者ごとに異なる ユーザID	ID連携・ 認証連携	<ul style="list-style-type: none"> ・【EHR】SAML2.0対応。アクセス毎に仮名を発行し、仮名による各ユーザIDの紐づけを実現。シングルサインオンが可能 ・【PHR】OpenID2.0対応。シングルサインオンが可能。EC/広告等の他分野サービスとの容易な連携が可能
医療・健康情報に適した セキュリティ確保	情報流通	<ul style="list-style-type: none"> ・【EHR】ID-WSF2.0対応。認証結果情報を用いた情報流通。通信路における暗号化・署名 ・【PHR】Continua対応（WAN、HRNインタフェース対応）
異なる目的・権限による データ操作	アクセス 制御	<ul style="list-style-type: none"> ・【EHR】本人の同意に基づく柔軟なアクセス制御を実現 ・【EHR】ユーザ、組織、資格および関係に対しアクセス許可ルールを設定可能
事業者ごとに異なる 運用管理	運用管理	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業者で共通利用できる部分を集中管理
生涯にわたっての 情報管理	医療健康 DB	<ul style="list-style-type: none"> ・医療健康情報に関する標準規格（SS-MIX、HL7、Continua等）に対応
事業者ごとに異なる データフォーマット	フォーマット 変換	<ul style="list-style-type: none"> ・既存NTTグループ商品（Rhapsody）により様々なフォーマットに変換可能